

産業構造審議会 保安・消費生活用品安全分科会 製品安全小委員会（第7回）

議事要旨

日時：平成31年3月4日（月） 16：00～18：00

場所：経済産業省別館2階227・231・235

出席委員

三上委員長、浅川委員、井上委員、大福委員、金谷委員、倉貫委員、佐々木委員、高橋委員
水流委員、東嶋委員、長田委員、福田委員、藤野委員、松本委員、遊間委員

議題

1. 平成30年製品安全関連法の執行状況等について
2. 平成30年製品事故の発生状況及び課題について
3. リコールの効率向上及び高齢者による製品事故について
4. 社会構造の変化・技術革新を踏まえた製品安全のあり方について
5. 製品安全行政に関する最近の動向について

議事概要

議題に沿って各資料に基づき事務局から説明の上、質疑応答が行われた。委員等からの主な発言は以下のとおり。

- | |
|--|
| 議題1. 平成30年製品安全関連法の執行状況等について
議題2. 平成30年製品事故の発生状況及び課題について
議題3. リコールの効率向上及び高齢者による製品事故について |
|--|

- 高齢者が製品を長期使用しがちであり、結果経年劣化による製品事故の増加が懸念される点については、「新製品への買替は不要であり、今持っている製品を壊れるまで使う」という人に対してどう対応するか検討していくことが必要。まだ使える製品を買い替えてもらうように促すというのは、SDGsとの文脈で難しいのでは。
- まだ事故が起きているリコール製品も存在する現状を踏まえ、どう残存率を考えていくのかはしっかり検討する必要がある。
- 壊れるまで使うというところについて、例えば扇風機について、若者であれば前兆の異音に気づけるが、高齢者は気づけない点等にも留意した施策の検討をして欲しい。

- 自宅で生活ができる介護度1～2の高齢者への対応が重要であると考えており、こうした方が使用することに配慮された製品の開発が進んでほしい。また、買い替え購入の際のサポートも重要である。
- 長期使用製品安全点検制度について登録しておくメリットをしっかりと伝えていくべき。時間をかけて丁寧にデータを分析し、検討を進めていくべき。

議題4. 社会構造の変化・技術革新を踏まえた製品安全のあり方について

- CtoCの取引においては、所有権が移転する形と、所有権を保持したまま共有するシェアリングエコノミーという二つの形がある。CtoCの取引をどうやって今の製品安全行政の考え方にどう組み込んで消費者を守っていくのか検討していくべき。

議題5. 製品安全行政に関する最近の動向について

- 製品安全優良企業表彰等が世の中に広まることで、統合報告書等に製品安全の取組が盛り込まれていくことにつながっていく。引き続き、政府によるアピールを期待したい。

お問合せ先

経済産業省 産業保安グループ 製品安全課

電話：03-3501-4707